

『豊かなひとづくりへの秘策』
〜二宮金次郎の実践から〜

【前編】

親子をつなぐ学びのスペース
リレート 代表

中桐万里子 先生

今日のお話は、私の先祖二宮金次郎を巡ってということなのですが、高島は二宮家にとって大変ゆかりのある地です。実は金次郎の長男の奥さんは高島の出身で、金次郎はこのお嫁さんを大変可愛がりましたし、お嫁さんも義父の金次郎を大変尊敬しました。私は五代目に当たる祖母の話聞いて育ちましたが、そのように思いますと、なお一層この地でこのようなご縁をいただけるということが大変光栄に感じます。

藤樹先生との繋がりは内村鑑三氏の「代表的日本人」という書籍に並べられている二人であるわけですが、代表的日本人とは、日本人らしいということとはどんなことなのか。



それは、欧米の人たちが重要だと考える合理性、効率性、科学的なもの、それだけではない何

かと生きている、それが日本人ならではの在り方の一つなのかもしれないと思います。金次郎もそのことをとても大切に人生を生きただけでした。

豊かなひとづくりへの秘策。私たちは、幸せになりたい豊かになりたいと日々暮らしていると思います。皆さまは「あなたにとって幸せって何ですか。豊かさとは何ですか。」と聞かれたらどう答えられるでしょうか。意外と簡単には答えられないのではないのでしょうか。あるいは私たちはなんのために働いているんだらう、そんなことを考えてみるのも大事かと思えます。ウイキペディアには、「資本主義社会において労働とは倫理的性格の活動ではなく、やむを得ず行われる苦痛に満ちたもの」と説明されています。確かに「働かなきゃ、お金儲けができない。どうやって生活していくつもりなの」と答えることもあるかと思いますが、日本人は、「はたらく」は「傍を楽にする」とこと仕事そのものに使命感を持つ、喜びを感じているなど、一人ひとりの価値観、人生観を盛り込みながら、一人ひとりが答えを出しているのだと思うわけです。私は小さいころから金次郎というヒーローの話聞いて育った「金次郎オタク」ということもあり、様々

なことを考えるときにどうしても金次郎だったらどうかかなあと考える癖があります。幸せのこと、働くこと、彼だったらどう考えるのか、そんなお話をしていきたいなと思えます。



金次郎、のちに尊徳（たかのり）と名を変えました。学校、の校庭などで薪を

背負って本を読んでいる像がおなじみじゃないかなあと思えます。しかし、大きくなつてから何をしたらいいのか意外と知られていません。金次郎はズバリ農業ということをした人です。いわゆる農民だったということです。

金次郎が生きていた時代の農業は、異常気象や自然災害が重なったという少し特殊な環境下にありました。なので金次郎は単に自分の田畑を耕すだけでなく、七十年の人生を被災地の復興に充てていきました。関わった町は六百以上だったといわれています。復興に大切なものが二

つあると彼は言います。一つ目は、『人の心の復活』です。頑張っても、頑張っても自然から意地悪をされるようなそんな気分、絶望、努力することの意味が解らない、未来が見えない、不安である、何のための毎日がわからない、心が荒れ、人々は未来への希望が持てなくなっていました。ですから一人ひとりの心が希望を取り戻すこと、やる気に満ちること、未来を信じられることが何よりも大事だったというわけです。つまり『心の田んぼの復活』が何よりも大事だったというわけです。そうはいっても人間は霞を食べて生きていくわけではありませんが、精神論や気持ちだけで生きていくわけではないのです。どうしてももう一つのもの、当時は米経済と言われている時代ですので、田んぼや畑がちゃんと実るといことです。『経済の復活、実りの復活』ということ。金次郎は『心の復活』と『経済の復活』の二つを担うのが自分の使命だと仕事に取り組みました。

金次郎像が手に持っている本に注目が集まり、読書家、勤勉な子どもだったと思われがちですが、実際の彼は徹底した実践主義者、行動主義者、何よりも実践や行動で現実を豊かにさせていく、そのことにこだわった人だったのです。